

平成31(2019)年度

事業計画書

社会福祉法人 清琉会

平成31（2019）年度 事業計画書

目 次

はじめに				1
重点目標				
1 本部事務局				2
本部管理室				
地域貢献室				
2 玉川グリーンホーム				3
Ⅰ：総務部	総務課			
	栄養課			
	医務課			4
Ⅱ：介護事業部				4
施設サービス	施設介護課			5
		施設相談係		
		本館特養係		
		新館特養係		6
		ユニット特養係		
在宅サービス	在宅介護課			6
		居宅介護支援係		7
		短期入所生活介護係		
		訪問介護係		
		通所介護係		8
月別事業計画書				9
3 高松山グリーンホーム				11
4 愛甲グリーンホーム				13
5 小町山グリーンホーム				15
6 厚木市玉川・森の里地域包括支援センター				17
7 委員会活動				18
8 研修計画				19

平成31（2019）年度事業計画

社会福祉法人 清琉会

はじめに

本年3月6日に清琉会創立30周年を迎え、9月1日には玉川グリーンホームが開設30周年を迎えます。これまでの礎を築いて来られた数多の先達に深甚なる敬意を表し、併せて30年の間、時に見守り時に支えて下さった地域の皆様、並びに常に献身的に尽くして下さった役員・職員の皆さんに心から感謝を申し上げます。

勿論30周年は一つの区切りとなるものではありませんが、決してゴールではありません。設立当時からの社会の変化を見返し、これからの時代がどのようなものになるかを予測、法人施設としてどう対応して行くべきか、検討を重ねながら実践を続けていかなければなりません。変化の激しい時代であり5年先の見込みすら予測は難しい事も多くあります。今後を乗り切っていくためには、常に志を高くし、組織体制の強化や財務基盤の強化に取り組みながら、一人ひとりの職員個々の向上、そしてチームワークなどチームとしての関係性の更なる強化が必要となります。

困難な状況を単に辛いと受け取ってしまうか、自らを成長させるための修練と受け取るか。一つの事柄でも本人の考え一つで取り組む姿勢や成果には大きな違いが生じます。常に前向きな姿勢で取り組めるようにするため、組織としての目的をより明確にし、目的達成のためのプロセスについても意見交換を重ねながら実践、そして更なる改善を繰り返しサービスの向上を図ってまいります。

「一人では出来なくてもチームなら達成出来る」そんな想いを体感したく、同じ法人に集った事を縁としながら、共に悩み、共に学び、共に進んで参りたいと思います。志を同じくする者相集い力を合わせ、「魂の継承」を30周年の一つのテーマに掲げ、新時代に対応出来る法人となるための契機の一年とします。

重点目標

1. サービス向上を目指した「関係の質」向上
～組織の成功循環モデルの取り組み～
2. 地域貢献活動の拡大 ～協働による支え合い強化～
3. ICTの充実 ～情報共有と情報発信～
4. 働き方改革への対応 ～安心して勤め続けられる職場を目指して～
5. 品格の向上 ～仕事を通じた人間的成長を図る

心掛けから始めよう～

1 本部事務局

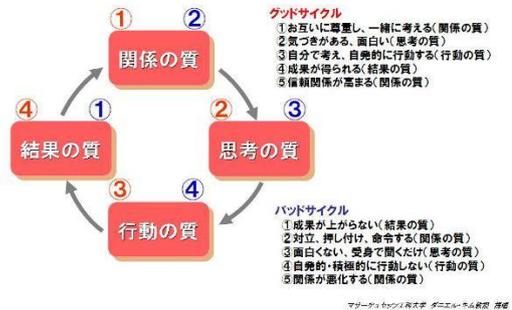
本部管理室

○組織強化 ～『関係の質』の向上から～

法人理念を再確認。目的・目標・手段の区分を明確にし、一人ひとりの職員が業務に取り組みやすい環境を創出します。

「サービスの向上」を目的とした成功循環モデルを参考にしながら、個々の価値観を尊重した上でチームとして活動するために、良好なコミュニケーションがスタートである事を法人全体に浸透させます。

組織の成功循環モデル



○働き方改革への対応

個別の事由などを考慮した働きやすい職場について、関係法令に基づいて遺漏なく対応します。一方で安易な対応により人件費が高騰するなど、財務基盤を揺るがしたりする事の無いよう、多角的な視点による取り組みを図ります。

○児童・保育室「ゆめっこ」の活用

福利厚生である児童・保育室をよりPRして、新たな人材の確保に繋がります。

育児・子育てを支援し、職員の継続就労に繋がると共に、高齢者の皆さんなどとの世代間交流にも積極的に取り組みます。

○人材育成のために ～品格の向上～

心掛けにより自身の行動がどの様に変化するか、育成面談などを活用しながら、成果とプロセス（過程）の双方を重視した取り組みを図ります。

「心が変われば態度が変わり、態度が変われば習慣が変わる。習慣が変われば人格が変わり、人格が変われば人生が変わる。」（アミエルの日記より）

○30周年記念事業の実施

法人創立、及び玉川グリーンホーム開設30周年として、下記の周年事業を実施します。

- ・ 記念式典
- ・ 記念誌発行
- ・ 記念植樹
- ・ 各行事について「30周年記念」の冠を付けて開催

地域貢献室

○地域貢献事業の検討、実施

「玉川・森の里見守り支え合い会議」の活動に協力、また求められる貢献事業について助言を頂き、出来る事から取り組みます。

地域の方が参加しやすい活動を主催。諸行事の開催や環境美化活動など、協働の場を創出することで、地域の繋がり強化の足掛かりとなります。

○かながわライフサポート事業の取り組み

様々な課題に向き合いながら、「個人の課題」を「家族の課題」や「社会の課題」として捉え、迅速な対応が図られるよう、関係機関との連携強化、普段からの情報共有を図ります。

○法人施設の有効活用をはかる

小町山グリーンホームの地域交流スペースや交流広場をはじめ、法人の持つ設備や機能を活かした取り組みを検討。『交流あってこそその「互助」』を念頭に、様々な方の社会参加、社会的役割を意識して頂ける活動に取り組みます。

2 玉川グリーンホーム

I : 総務部

総務課

○品格の向上を意識した接客

法人・施設の窓口を担当する者として、常に礼節・言葉遣い・立居振る舞いには留意をして、信頼を損ねるようなことの無いように接客業務に取り組みます。
また、職務を通じて自らの修練を図ります。

○職場環境の整備

経年劣化による施設・設備・車両等の不具合を早期に発見し、業務に支障が出ないように修繕等の対応を行います。また、組織力を高める為にも職員の定着率の向上が求められるため、職員の健康管理に留意し、働き方改革への対応も積極的に行い働きやすい職場環境の整備にも努めます。

○経費削減

介護報酬改定により大幅な減収が見込まれ、安定的収入増が厳しくなっている外部環境を鑑み、必要な経費は確保しつつ、削減可能な経費を検討し実施出来るように努めます。

栄養課

○安全管理、食中毒・感染予防の徹底

調理中の事故防止、食品の取り扱い、衛生管理、食中毒・感染症の予防に努めます。また日々の手洗い、うがいをしっかり行い健康管理にも十分注意してまいります。

○栄養ケアマネジメントへの取り組みと摂食嚥下しやすい食事作りを行う

多職種協働による栄養ケアマネジメントに取り組み、お互いの情報を共有し健康を維持増進できるよう努めます。また入所者、ご利用者のニーズに応じた食事の提供、安全なソフト食、喜んでいただける行事食やイベント食を行います。

○地域貢献

地域の方々にもニーズにあった美味しく安全なお食事(お弁当等)を提供し、多くの方と交流をはかります。

○品格の向上

法人の職員として社会人として、入所者ご利用者、職員(仲間)に対して礼節、言葉使い、立ち振る舞いを常に意識します。また職場の中では輪を乱すことなく働きやすい環境作りを心掛けます。

医務課

○法人内部での関係強化

ご利用者の高齢化・重度化が顕著な中、医療的依存度が一層高まる事を認識し、早期対応・早期治療を目標に、介護・栄養など多職種との連携を強化。日頃からのコミュニケーションと情報共有を図ります。

○ご家族の不安軽減に向けた取り組み

一つの事象についても、ご家族と施設側、医療機関などとの間において認識に差が生じることがあり、そこから対応の遅れやそれぞれの不安に繋がる危険性もある。ご利用者ご家族に不安なく過ごして頂くために、説明責任を果たしながら共通の認識を得られるよう取り組みます。

○終末期医療への対応

今後増加が見込まれる終末期から看取りへの対応について、法人施設としてのあり方を検討。対応する職員一人ひとりが、不安なく職務に当たることが出来るよう知識の習得、対応時に支援する仕組みを作ります。

○一つひとつの重要性を理解した行動の徹底

服薬や食品アレルギーなど、ご利用者の持つ状態(症状)に対して的確に対応することの重要性や生命に関わる危険性を伝えながら、介護現場におけるヒューマンエラーがいかに重大で、無くして行かなければならない事であることを意識づけるよう取り組みます。

Ⅱ：介護事業部

法人重点目標のもと、平成31年度の介護事業部目標を以下のように定める

◆「住まいかた」を大切にする

法人理念を理解しつつ、ご利用者のみでなく職員も安心して働き、充足感ややりがいを得られるように親密圏を創ります。

◆身体拘束廃止推進モデル施設としての確かな介護福祉の実践

権利擁護、身体拘束ゼロ、褥瘡ゼロ、骨折ゼロを目標とし、認知症ケアを向上します。

日々の介護福祉実践をより確かなものとする為にも、法人内研修会や認知症介護実践者研修等の外部研修会参加、各セクションでの共有を促進します。

・介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）

施設介護課

○チームケアの向上

スタッフ一人ひとりが、それぞれの役割、専門性、持ち味を活かしながら、責任をまっとうし、お互いを認め、尊重し、力を合わせていくことでよりよい介護サービス提供へ繋がります。

○安心・安楽な看取り介護の実践

ご本人が「ここが人生の最期の場所で良かった」、ご家族が「ここを最期の場所を選んで良かった」と思ってもらえる日々の介護、日々の延長である看取り介護を実践します。

○ケアプランの充実

ご利用者のニーズを把握する為に定期的なアセスメントを行い、ケアプランの充実を図ります。PDCAサイクルを活用しチームケアの向上に努めます。

【施設相談係】

○ご利用者とご家族に安心していただける生活を提供する

ご利用者の安心・安全は基より、ご入所者とご家族の要望や不安に寄り添い、より満足度の高い生活が送れるよう援助致します。また、入所希望の方には的確な情報提供及び状況確認を行い、安心してご入所頂けるよう尽力し、選ばれる施設となれるよう努めます。

○入退所指針に則り、適切な入退所を行う

入所希望ご家族へ適切な説明を行い、神奈川県特別養護老人ホーム入退所指針に則った入退所を適切に実施し、退所発生から次の方の入所までの期間短縮に努めます。

○入院日数を年間延べ1500人以下(稼働率98%)とする

ご利用者が重度化している現状はあるが、医務課と連携を図り入所者の体調管理を行い、早期発見早期治療を心掛け、入院に至った場合は医療機関と連携を図り、迅速な対応を図ります。ショートステイによる空きベッドの活用や、退所者発生の場合以降の流れを厳格化することで早期調整を行い、稼働率の向上を図ります。

【本館特養係】

○ICTの充実 チームケアの向上

定期的に業務内でカンファレンスを開催し情報の共有の場を設け、個々の判断力とチーム全体のケアの向上・統一したケアの実施に努めます。

○初心忘れるべからず

介護を志した時の気持ちを常に念頭に置き、三大介護の基本、コミュニケーションの基本、対人援助の原則、全ての基本に立ち返り、日々の介護を行います。

【新館特養係】

○介護過程の展開

ICF（国際生活機能分類）を活用したケアカンファレンスを継続的に行う事により、身体的・心理的支援の充実。

○品格の向上と意思の確認

礼節、言葉遣い、立ち居振る舞いについて常に意識し、日常の何気ない行為についてもご利用者の意思を確認した後に、必要に応じて支援を行います。

【ユニット特養】

○チームケア強化 職員間の連携を高める

職員同士が相手の考え（価値観）を理解する姿勢を忘れず、日々の業務や話し合いの中で、コミュニケーションを充実しチームケアを高め、より良いケアに繋がります。

○ユニットケアの実践 ご利用者目線に合わせた業務の拡充

職員都合で業務を捉えず、ご利用者の目線をまず優先と理解し、「何が一番大切なのか」を考え問題解決を図り、ユニットケアを皆で深めていきます。

○健康維持

職員間の情報共有、連携を強化し、ご利用者の健康管理、衛生管理を行い、健康維持に努め、入院日数の減少を図ります。

○自律的な日常生活に向けた支援

ユニット特養において、ご利用者が相互に社会的関係を築き、自律的な日常生活を営んで頂ける様に支援します。

・在宅サービス

在宅介護課

○サービス事業所の体制強化

職員のスキルアップを目指し、情報共有や研修等の参加を積極的に行い人材育成への体制強化を目指します。また、介護保険制度等のコンプライアンスを徹底できるように事業所内でのチェック体制を確立し、事業所の質の向上を目指します。

○地域包括ケア社会の推進

地域資源の把握に努め、地域の方々が住み慣れた地域で支援が一体的に受けられるよう地域包括支援センターをはじめ、医療や障がい分野、そして地域の方々との連携強化に努めます。

○利用者情報の伝達・確認

事業所内において複数サービスを利用されているご利用者の情報共有が徹底されておらず、ご家族等に再三確認させて頂いたために不信感に繋がってしまう。そういった事が発生しないように、事業所内のご利用者情報について伝達方法の確立、確認の徹底を図ります。

●居宅介護支援係（ケアマネジャー）

○ケアマネジメントの質の向上

アセスメントの充実を図り、生活歴や生活環境を踏まえ、本人の想いを大切に
した「自立支援」に向けたケアプランの作成に努め、プラン内容の根拠を明確に
し、分かりやすく、そして多職種からの意見が反映できるよう取り組みます。

○連携の強化

ご利用者、ご家族が持つ課題が、医療・福祉・障がいなどの分野に多様化・複
合化している現状を踏まえ、多職種との連携強化が図れるよう、情報の共有方法
を見直し、OA化（ICT化）の推進を図ります。

●短期入所生活介護係（ショートステイ）

○ご利用者・ご家族の満足度の追及

ご利用者、ご家族のニーズを把握し、課題解決のためのプロセスについて職員
間で意見交換し課題解決はもちろん、更なる改善に向けて取り組みます。

課題解決の一環として残存機能を活用したアクティビティ活動、生活リハビリ
を継続的に実践しその人らしく在宅生活が送れるよう支援します。

○職員間のチームワーク強化

他者の意見に耳を傾け、お互いを尊重し助け合うことで信頼関係が高まるよう
努めます。また、どんなことにも常に前向きで取り組む姿勢をモットーに、様々
な問題について一人で抱え込まず、セクション内で共有し常にチーム一丸となり
問題解決に向けて取り組みます。組織の成功循環モデルに取り組みます。

○専門職として資質の向上

職員一人ひとりが自身の課題解決には何が必要かを考え、その解決のため自発
的に施設内外の研修への参加や、課題解決を意識しながら業務に取り組みます。
課題解決に必要な知識や技術の習得をきっかけとし、自らの成長を目指します。

○施設設備の効果的活用

ショートステイのベッド定員（16床）の稼働率90%以上を目指します。

居宅介護支援事業所との連携を密に行うと共に、新規ご利用者の確立・ご利用
者の定着率の向上に努めます。また空床ベッドを効率良く活用する為に入所相談
員、看護師等と情報を共有しスムーズな利用につなげます。

●訪問介護係（ホームヘルプサービス）

○仕事を通して成長していく

社会との関わりを通して自己実現（自分の成長）のために固定観念や先入観に
とらわれず、常に学ぶ姿勢の維持に努めます。また、良き社会人を目指し、ご利用
者・ご家族、そして職員間での良好な関係を築けるよう、自分の立場だけでなく
相手の立場や気持ちを理解するよう努めます。

○振り返り、見直す仕組み作り

ご利用者の様子を良く観察し、サービスの満足度を確認しながら、新たな問題点がないかなど評価（モニタリング）し、また職員間での情報共有に努め、支援内容の適時見直し、改善ができる体制を目指します。

○「伝える」「聴く」の工夫

自分と相手では理解度が異なることを常に念頭に置き、自分の知識や感覚だけでなく相手の気持ちを尊重しながら伝えるように努めます。また、利用者の想いを十分に理解し、その方に合った支援を提供できるようにしっかりとご利用者の声に耳を傾けます。

●通所介護係（デイサービス）

○ケアの質、認知症ケアの質の向上

ご利用者、ご家族一人ひとりに満足していただけるよう、組織の成功循環モデルを目指し、チームでのケアを確立していきます。また、個々のアセスメントを通して認知症ケアの充実を図り、誰もが仲良く安心して、ご利用できる環境を目指します。

○専門職としての意識向上

サービス業として法人内の模範となるよう、マナー接遇を根本的に見直し、品格の向上に努めます。

業務内でミーティング時間を設け、全職員間での、情報共有を密にし、根拠のあるケアを確立することにより、職員の不安を解消すると共に、問題解決や安心して働くことのできるチームにします。

○効率的な事業運営

ご利用者同士のコミュニケーションの場としての機能を図り、地域との連携・接点を持つことで安心して過ごせるデイサービスを目指します。

新規ご利用者の受け入れや利用日の増加と定着に努めます。

利用率85%（日常生活支援総合事業含む）を目指します。

玉川グリーンホーム 平成 31 年度月別事業計画書

月別	施設内行事	施設外行事	その他
4月	入所者自治会総会 バイキング 茶の湯（偶数月末）	小野神社祭典参加 お花見	ケアプラン作成（毎月） 家族会総会 新採用職員研修
5月	端午の節句 母の日（母を語る会） 藤見の会 レクリエーション大会	鯉のぼり見学 厚木市緑の祭参加	ボランティア総会 防災訓練 入所者定期健康診断 職員定期健康診断 監事監査、理事会
6月	父の日（父を語る会） 七夕飾り制作 職員全体研修	あやめの里散策	定時評議員会 嗜好調査と栄養指導
7月	七夕祭り バイキング 納涼盆踊り大会	J A玉川支所納涼祭	防災訓練 機関紙発行
8月		小野地区納涼祭	夜間防災訓練
9月	敬老祝賀会 十五夜	梨狩り	管理者研修
10月	十三夜 清琉文化祭・いも煮会	市内デイサービスセンター 一風船バレー大会	共同募金
11月	バイキング インフルエンザ予防接種		火災予防運動 防災訓練 職員定期健康診断 感染症対策強化月間 （～2020.3月まで）

月別	施設内行事	施設外行事	その他
12月	ボランティア感謝デー 冬至(ユズ湯、かぼちゃ料理) クリスマス会 大晦日(年越しソバ)		歳末助け合い運動 機関誌発行
1月	新年会 七草粥 どんど焼き	小野神社参拝	
2月	節分祭 バイキング		
3月	ひな祭り会 春のコンサート お彼岸	玉川公民館祭り	理事会 火災予防運動 介護者教室

毎月行う行事

誕生会	第3水曜
ショッピング	第1、2、3火曜(施設内)、第4水曜(施設外)
ケアカンファレンス	毎週水曜
精神衛生	第2、4木曜
嘱託医往診	毎週土曜
歯科医往診	毎週火曜
産業医来所	毎月第1水曜

3 高松山グリーンホーム 認知症対応型共同生活介護

○適切なケアと日常生活の充実

家庭的な雰囲気の中で入居者・ご家族とのコミュニケーションを大切にし、個々の心身の状態に応じた適切なケアを行い、健康で安全に安心して暮らして頂けるように努めます。また、四季に応じたイベントの開催や地域行事へ積極的に参加し、日常生活の充実を図ります。

○職員育成と人間関係の向上

社会人・専門職として必要な礼節、言葉遣い、立ち振る舞いを職員個々が常に意識し、チームとしてお互いを尊重し、相手の気持ちを理解し、周囲を思いやり、人の話を最後まで聴ける能力を養い、責任感を持ち信頼される職員となるよう努めます。

○認知症の理解と専門性の向上

認知症についての勉強会や、施設内外への研修に積極的に参加し知識や技術の理解を深め職員間で共有し、チームとして統一した介護を目指します。

○地域社会との連携・認知の獲得

地域包括ケア社会の目的を理解し、地域に根差した施設として地元地域と積極的に係わりを持ち、地域住民と協力出来るよう交流を図りながら多くの方に施設と関わって頂くよう努めます。

高松山グリーンホーム 平成 31 年度月別事業計画書

月別	施設内行事	施設外行事	その他
4月	お花見 セリ摘み	小野神社例大祭 愛名ミニデイ 玉川せんみ風揚げ大会	消防設備点検 運営推進会議
5月	端午の節句（菖蒲湯） 母の日（母を語る会） 保育園児との交流	森の里鯉のぼりまつり レクリエーション大会 玉川中学校体育大会	エレベータ点検 職員定期健康診断
6月	父の日（父を語る会）	愛名ミニデイ 飯山あやめの里散策	電気設備点検 運営推進会議 害虫駆除
7月	七夕（飾り付け） 保育園児との交流	愛名納涼盆踊り大会 清琉会納涼盆踊り大会	防災訓練 定期清掃ワックスがけ

月別	施設内行事	施設外行事	その他
8月	お盆（おはぎ作り）	愛名ミニデイ 愛名諏訪神社例大祭	エレベータ点検 運営推進会議
9月	敬老お楽しみ会 保育園児との交流	愛名敬老会	
10月	十五夜（お団子作り）	清琉文化祭 （いも煮会、演芸発表）	消防設備点検 運営推進会議
11月	インフルエンザ予防接種 保育園児との交流	保育園コスモス運動会 愛名ふれあい祭り	エレベータ点検 職員定期健康診断 定期清掃ワックスがけ 感染症対策強化月間 （～2020.3月まで）
12月	冬至（柚子湯） クリスマス会 大掃除 大晦日（年越しソバ）	年末美化清掃 愛名ミニデイ（クリスマス会） 玉川中学校吹奏楽部（クリスマスコンサート）	害虫駆除 運営推進会議
1月	祝い膳 初詣 七草粥 保育園児との交流	どんど焼き あつぎ駅伝応援	エレベータ点検
2月	節分・豆まき	愛名ミニデイ	防災訓練 エレベータ点検 運営推進会議
3月	ひなまつり（桜餅作り） お彼岸（ぼた餅作り） 保育園児との交流		定期清掃ワックスがけ

毎月行う行事

臨床絵画

4 愛甲グリーンホーム 認知症対応型共同生活介護

○日常生活の充実

家庭的な雰囲気づくりと地域の交流で日常生活の充実を図ります

体力、筋力の低下予防と同時に入所者のリフレッシュを測り、季節や時間の変化を楽しめるよう四季に応じたイベントの開催や地域行事へ積極的に参加します。

○認知症介護力向上のためスキルアップ

認知症の理解を深める勉強会への参加や、施設内外への研修に積極的に参加して職員間で知識や技術を共有し、全体での統一した介護を目指します。

○より良い職場で品格の向上を目指す

周囲を気遣える人材を育成します。思うことがあるならば、まずは発信し、実現する力を身に着けます。

○責任の重要性

目的に沿った正しい業務を行い、自分の行動にも責任を持ちます。記録や他の連絡事項の情報発信、情報共有を徹底し、どんな状況時にも的確に説明できる力を身に着けます。

愛甲グリーンホーム 平成 31 年度月別事業計画書

月別	施設内行事	施設外行事	その他
4月	ワックス清掃	お花見 龍鳳寺灌仏会 せんみ凧揚げ大会 小野神社例祭 つつじの丘公園散策	
5月	端午の節句（菖蒲湯） 母の日（母を語る会）	レクリエーション大会 鯉のぼり見物 玉川中学校運動会見学	職員定期健康診断 運営推進会議
6月	父の日（父を語る会）	蓮池見学	害虫駆除
7月	七夕祭り おやつレクリエーション	清琉会納涼盆踊り大会	運営推進会議

月別	施設内行事	施設外行事	その他
8月	涼菓子レクリエーション		防災訓練
9月	ワックス清掃 敬老会	野外散策	運営推進会議
10月	ハロウィンイベント 十五夜	清琉文化祭 厚南幼稚園運動会	
11月	インフルエンザ予防接種	紅葉狩り 愛甲公民館祭り	職員定期健康診断 運営推進会議 感染症対策強化月間 (～2020.3月まで)
12月	冬至(柚子湯) ワックス清掃 針供養 クリスマス会 大晦日(年越しソバ)	美化清掃 クリスマスコンサート	害虫駆除
1月	新年会(祝い膳) 書初め 七草粥 鏡開き	どんど焼き 初詣 厚木駅伝応援	運営推進会議
2月	節分祭	厚南幼稚園発表会	
3月	ひな祭り		防災訓練 運営推進会議

毎月行う行事

音楽療法、他慰問の参加

ショッピング

誕生会

体重測定

5 小町山グリーンホーム

サービス付き高齢者向け住宅（(介護予防)特定施設入居者生活介護）

○効率的職務の遂行

全職員が協力し、時間・設備など定められた条件の中で、より良いサービス提供ができるように業務改善について提案し実践します。

情報の共有と発信に努め、リスクマネジメントに役立て、受診や報告書作成時間などの減少に繋がります。

超過勤務時間などの「可視化」を実践し状況把握に努め、達成時には喜びと感謝を共感し、更なる進化に向けてチームで取り組んでいきます。

言葉遣い・立ち振る舞いに気を配り、品格の向上に努めます。

○生き生きとした生活の支援

情報の共有と情報の発信を行い、統一したチームケアを実践します。

ショッピング・外出・行事等の定期的な催しにより、充実した生活をサポートします。また集団生活であることをプラスに感じて貰えるよう、入居者同士の相性などを考慮し食堂座席の配慮を行うなど、快適な生活環境を提供します。

○おいしくて楽しい食事を提供する

入居者の嗜好などを感じながら同じ食材でも変化を加え、飽きないような食事内容を職員間で話し合い、提供して反省点を振り返り、より良い食事の提供を目指します。

小町山グリーンホーム 平成31年度月別事業計画書

月別	施設内行事	施設外行事	その他
4月	お花見	お花見ドライブ 龍鳳寺花祭り 小野神社例祭	しあわせクラブ総会
5月	鯉のぼり飾り 母の日(母を語る会)	森の里鯉のぼり祭り レクレーション大会 玉川中学運動会見学	職員定期健康診断
6月	父の日(父を語る会) らっきょう漬け じゃがいも掘り	あやめの里散策	
7月	七夕飾り 流しそうめん	上古沢花巡り 清琉会納涼盆踊り大会	小野地区大納涼祭

月別	施設内行事	施設外行事	その他
8月	花火鑑賞会 すいか割り アイスイベント	森の里夏祭り	
9月	梨狩り 敬老会 防災訓練		しあわせクラブ敬老の 集い
10月	インフルエンザ予防接種 消防機関合同防災訓練	ミニデイ 玉川地区大運動会 小野小町まつり	職員定期健康診断
11月		JA ふれあいまつり あつぎ七沢森のまつり 森の里公民館まつり 森の里音楽祭	感染症対策強化月間 (~2020.3月まで)
12月	クリスマスイルミネーション飾り 餅つき 大晦日 (年越しソバ)	森の里クリスマス祭り	歳末助け合い運動
1月	新年会 (祝い膳) 七草粥 団子作り・どんど焼	小野神社初詣 あつぎ駅伝応援	
2月	節分・豆まき		しあわせクラブ新春の 集い
3月	ひな飾り 運営懇談会	玉川公民館まつり 合同ミニデイ	

毎月行う行事

スーパー三和ヘショッピング：毎週月、水、金

グランドゴルフ：毎週金曜日 午後

お茶会：毎月 第一火曜日

農作・園芸作業：毎月

6 厚木市玉川・森の里地域包括支援センター

○サービス向上を目指した相談業務における質の向上

地域包括支援センターは「地域における介護相談の最初の窓口」と認識し、相談者に寄り添った対応を行います。①礼節を重んじた対応、②迅速で親身な対応、③職員間の信頼関係・連携強化、④関連多職種との連携強化に努めます。

○地域包括ケア社会推進に向けて『玉川・森の里見守り支え合い会議』運営

「誰もが住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで」の仕組みづくりに向けて、『玉川・森の里見守り支え合い会議（第2層協議体）』を運営し、地域ニーズを抽出し、地域特性を活かした助け合い活動の創出拡大、地域と協働しての法人地域貢献事業の展開等を検討します。

○「元氣いきいきネット推進事業」等の開催

介護予防活動の人材育成を念頭に、「元氣いきいきネット推進事業」等講座を、地域交流施設や公民館を活用して開催します。また、ご家族への介護負担軽減や支援を念頭においた「認知症カフェ」等の開催や受講した認知症サポーターの担い手づくり等を目指します。

○介護予防ケアマネジメント業務の適切な運営

法令遵守のもと、介護予防ケアマネジメント業務及び介護予防サービス業務を適切に運営するため、①日々の業務の確認、②主治医等医療関係者との連携、③関連多職種との連携、④記録の適切な整備に努め、利用者を中心とした支援に取り組めます。

7 委員会活動 ※重点的取り組み

各委員会の設置は、発生する課題について法人全体で取り組み、法人としての統一的な対応を図ると共に、職員相互の交流を図ることを目的とする。

I：育成委員会（キャリアパス）

- 1 社会人・法人職員・専門職それぞれの立場に対する育成計画の企画、実施
- 2 OJT、メンター制に基づく育成システムの検討

II：介護技術向上委員会（認知症ケア）

- 1 利用者にとって安楽、介護者にとって負担の少ない介護技術の研究
- 2 資格取得に向けた、実技能力の向上
- 3 認知症ケアにおける柱となる方針の検討

III：サービス向上委員会（苦情相談）

- 1 苦情相談の受付並びに適切な対応
- 2 利用者満足度調査の企画、実施

IV：拘束・事故防止検討委員会（身体拘束廃止、虐待防止の取り組み）

- 1 ヒヤリハットの統計、分析
- 2 身体拘束並びに虐待に対する正しい知識の習得と防止に向けた意識の向上
- 3 身体拘束廃止並びに虐待防止に関する研修会の開催

V：ICT推進委員会（情報公開）

- 1 社会福祉法人の経営公開への対応 適切な情報発信並びにその検証
- 2 適切な情報共有を目的にしたICTの推進

VI：環境衛生委員会（感染症防止）

- 1 感染症の発生予防、拡大防止対策の検討
スタンダードプリコーション(標準予防策)を徹底する仕組みづくり
- 2 安全衛生法に基づく「安全衛生委員会」としての機能

VII：防災対策委員会（災害対策、BCP策定）

- 1 防災訓練、一斉器具点検の企画実施
- 2 災害時マニュアル、高齢者以外も対象とした防災備蓄品の見直し

8 研修計画

前述の委員会における重点的取組の研修を開催、研修内容は委員会にて検討。

職員が講師または事例発表者となる機会をつくり、本人の内容の整理確認など理解も深めることを目的とします。

	月例研修内容案	担当（委員会）	他、研修事項
4月			
5月		防災対策委員会	新採用職員研修
6月			管理者研修
7月	虐待防止について	拘束・事故防止検討委員会	神奈川県研究会議
8月		介護技術向上委員会	
9月			新採用職員研修
10月	感染症予防について	環境衛生委員会	全国研究会議
11月			
12月	拘束廃止について	拘束・事故防止検討委員会	新採用職員研修
1月		I C T推進委員会	
2月		サービス向上委員会	管理者研修
3月			新採用職員研修

※外部研修の実施などを考慮し、開催時期の調整を行う。

※各部門等における会議時に、各種研修を同時開催する。

その他研修に関する取り組み

- ・ 関係機関の実施する外部研修への参加
（特に認知症介護実践者、リーダー、管理者、指導者研修を重点に）
- ・ 職員の申し出による関連研修への参加
- ・ 国家資格等受験者に対するフォロー